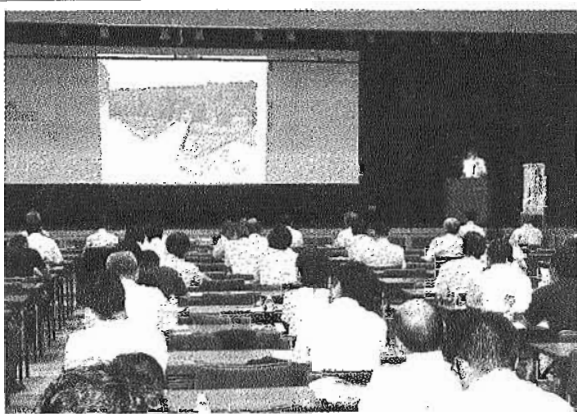


技術向上の一助に

治山林道研究発表会

2013年度治山林道研究発表会が9日、鹿児島市の県庁講堂で開かれた。県や市町村職員のほか、森林土木に関する技術者ら約260人が参加し、各振興局や支庁の代

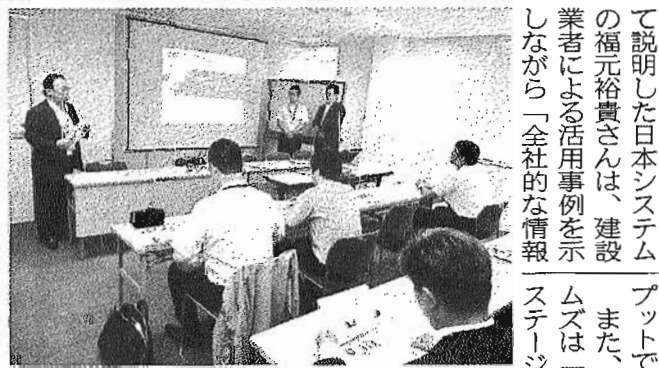
表12人の研究発表に耳を傾けた。
治山林道技術について、研究成果発表を通じて、技術者の研さんを図るとともに、県土の保全と林業の振興に資することを目的に開催された同発表会。発表に先立ち、県環



54回目を迎えた今回は、代表者12人(治山林道部門7人、林道部門5人)が、日ごろの業務で直面した課題の調査や研究成果などを報告。審査の結果、南薩地域振興局の西田幸治さんと北薩地域振興局の前田真也さんが

日本システム リンクスゲートを提案 建設業向けセミナー

建設業・工事現場向けのソリューションセミナーが8日、鹿児島市の日本システム(株)であった。同社は、建設業の経営者向けに、同社の経営者向けデータ分析ツール「リンクスゲート」を紹介した。



情報共有を通じた営業展開を提案したミニセミナー＝鹿児島市の日本システムで

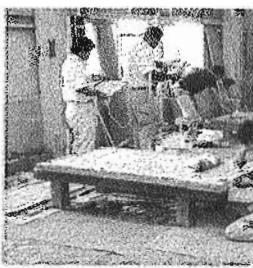
ては、個々でなくみんなが問題意識を持って課題に取り組みることが重要である」と講評を述べた。

どけんやナビ紹介

県、建設産業支援策セミナー

県主催の建設産業支援策等セミナーが7日、西之表市の県熊毛支庁であった。(株)西郷組の西郷進平副社長が「自社の得意分野につなげていく建設業の新分野進出」と

題し講演し、建設会社と民間をインターネットでつなぐサイト「どけんやナビ」の仕組みやメリットなどを紹介した。



建設企業の新分野進出への支援策や事例紹介・研究を通して経営向上の取り組みを支援するセミナー。

県職業能力開発協会 畳・タイル 技能検定

また、鹿児島高等技術専門校で開かれたタイル張り(タイル張り作業)の2013年度技能検定が7月14日、鹿児島市のポリテクセンタで開かれた。鹿児島市などから参加した畳・タイル張り作業の技能検定は、壁および床の一部と仮定された下地にタイル張りを行うもので、制限時間は2時間30分。受検者は、時間配分や出来栄などを確かめながら真剣に取り組んでいた。

新留土木、新留運送開発

防災防止へ安全大会

(株)新留土木(新留司社長)、(株)新留運送開発(永瀬勝社長)合同による安全衛生大会が10日、鹿児島市の新留土木コンクリートリサイクルであった。写真。社員ら約60人が参加して、三大災害撲滅に向け安全意識の高揚を図った。

ち、リスクアセスメントによる危険予知活動を活性化させて、作業に取り組んでほしい」と挨拶。建設業労働災害防止協会県支部の堤博志事務局長が防災防止対策、鹿児島西部地区交通安全運転管理協議会の岩元留雄事務局長が交通安全への心構えなどについて講話。その中で、堤事務局長はリ

の必要性などを説明し「見える安全を心掛けてほしい」と呼び掛けた。最後に、新留土木の本富士夫さんと新留運送開

稲森クレーン建設

稲森クレーン建設(株)(稲森勝次社長)は11日、2013年度安全衛生技術大会を鹿児島市の同社資材置場で開いた。写真。社員を6チームに分けて実技を行い、それぞれの課題点を良かった点

と、力強く安全宣言、全員でゼロ災への決意を新たにした。同日は大会に先立ち安全祈願祭があり、新留社長や中野正行新留運送開発取締役会長らが神前に玉ぐしを捧げ、今年1年の安全を祈願した。

稲森社長は「実技ではそれぞれのチームに課題を与え、気づいた点の意見を出し合い、会社全体でスキルアップを図っていく必要がある。今後も事故のない明るい職場の創造に努力していきたい」と話した。

安全表彰が始まった大会では、永井会長が「安全第一が自分の身、仲間を守る。災害を起す



安全大会で表彰された新留組・新友会